

2022年度事業状況報告書

2022年度事業実施報告書

(2022年1月1日から、2022年12月31日まで)

I、事業の概況

新型コロナウイルス・変異株の出現により外出自粛など日常生活に大きな影響が出る中、地域皆様の身近な健康相談ができる存在として、保健衛生の向上やセルフメディケーションの推進に貢献するため、薬事法改正による『資質向上通知』に基づく、既存配置販売業者並びに新配置販売業者の配置員を対象とした資質向上研修会を実施し「薬機法規・医療・薬理学の知識及び医薬品を取り扱う者に求められる理念倫理の修得、医薬品消費者に対する【適切な情報提供・相談応需・適性販売】等の修得に鋭意努めた、更に消費者に対する医薬品の適正使用のため啓発活動等々を県行政ご当局の指導を頂き実施した。

『資質向上研修』

厚生労働省医薬食品局総務課課長通知による、既存配置販売業者・新配置販売業者から委託された配置従事者の一定水準の資質向上研修会は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する為、通信講座により既存・新配置業者の配置従事者50名の委託を受けて、登録販売者試験問題作成の手引書を基本教本とし鋭意実施した。

『麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止活動』及び『薬と健康の週間』啓発活動

青森県が実施する『麻薬・覚せい剤乱用防止活動』の一環として、『青森県薬物乱対策

本部』交付リーフレット3000枚を『薬と健康の週間』に県内の配置薬消費家庭へ毎戸配布し医薬品の適正使用並びに薬物乱用の根絶を訴えた。また、6・26ヤング街頭キャンペーン及び「ダメ。ゼッタイ。」国連支援街頭啓蒙募金活動へ参加するとともに国連支援基金の寄贈も行った。

『献血思想の普及啓蒙活動』

「愛の血液助け合い運動」協力事業及び2022年度「献血感謝の集い」に啓発資材を協賛提供する

『社会貢献事業』

「一般社団法人青森県視覚障害者福祉会」

＊「社会貢献事業・録音用CD－RW200枚」寄贈

参加者：関原純、四十物隆之

Ⅱ、会員の状況

項目	期首現在	増加	減少(廃業等)	期末現在
会員数	86名		16名	70名

会務の状況

- 2月17日 牧野会長より銀行通、携帯電話送られて、引き継ぎました。
- 4月10日 愛の献血助け合い運動に、後援、協賛の依頼がありうけました。
- 5月27日 ダメ絶対募金のお願いがありました。
- 5月31日 リモートにて正副会長会議を行い理事・監事会の開催場所、日時決める。
- 6月10日 午前正副会長4名にて県庁医務薬務課訪問 7月研修会につて
増田総括主幹様、サブマネージャー玉沢様と懇談し中止とする。
- 6月10日 午後理事・監事全開催。
- 6月16日 青森大学斎藤弘子教授を訪問。7月研修会中止を伝える。
新教本、通信講座について打ち合わせをする。
- 6月26日 弘前地区にてダメ絶対街頭啓蒙に参加する。
金山、牧野、米田、押上の4名の理事
- 7月12日 青森県庁へダメ絶対薬業3団体の寄付(5万円)をする。関原会長出席
- 10月17日 青森県健康福祉部医療薬務課薬務指導グループ総括主幹増田様に研修会
案内を送る。資料いただく。
厚生労働省へ研修会の開催案功を送る。
- 11月18日 研修会開催 講師増田大介総括主幹、青森大学教授斎藤弘子様
- 11月29日 薬と健康の週間街頭啓蒙活動(西北五地区)がエルムの町で行われた。

- 11月29日 佐々木繁幸、佐々木光司、台丸谷光雄の3理事が参加した。
- 12月6日 一般社団法人青森県視覚障害者福祉会 青森県視覚障害者情報センター
へ 録音用CD-RWを200枚寄贈した。
- 12月13日 青森県視覚障害者情報センター所長 阿部由美子様よりお礼状届く。
- 12月29日 正副会長、理事・監事会の開催案内を出す。

令和5年1月18日リンクステーションホール青森にて
- 1月12日 令和5年通信講座問題集を全配連(熊本)にお願いした。